

駆けろ、青春の ヒメとヒコ

あらすじ
ごく普通の高校生「マナ」は、大好きな姫子先生が昭彦先生に恋をしていることを知る。恋を応援するマナはある日、授業で古墳を訪れた際に1人で祠へと向かうが、白い鳥の化身に誘われ、古代の奄美大島へ迷い込んでしまう。奄美で姫子先生そっくりな「ヒメ」と、昭彦先生にそっくりな「ヒコ」に出逢ったマナ。そんな中、ヤマトの使者が巫女の力を目的にヒメを誘拐すると、奪還を誓うヒコは争いへ身を投じてゆく…



2月4日(土)・5日(日)に高校生ミュージカル「ヒメとヒコ」が市文化会館で開演されます。平成20年に初演を迎えた「ヒメとヒコ」は、高校生たちのひたむきな演技で多くの観客を魅了し続けています。「ヒメとヒコ」の歴史とその背景から、感動の秘密を探ります。市文化会館 ☎0994-44-5115



輝きを見てほしい
初めて舞台を見たときの「キャスト全員が輝いている」と感じた記憶は忘れられません。私も「ヒメとヒコ」の舞台上で輝きたいと思い入団しました。この1年間で、イベントの司会をはじめたくさんの経験をさせていただきました。自分の表現できる幅も広がって大きく成長できたと感じていて、ほんの少しですが、自分の表現がつかめてきた感覚があります。今年も全員の個性が輝くような舞台が作れるように練習しているので、観客の皆さんには本番で私たちの輝きを見てもらいたいです。

感動を届けるために
去年と同じではなく、よりよい舞台を目指してどこに変化をつけるのかという課題意識を持ってメンバー全員で練習に取り組んできました。今年は登場人物の感情をダイレクトに演技に乗せて、たくさんの感動を皆さんに届けたいです。私も去年のマナの役から変化をつけて、よりユーモアのある元気いっぴいなマナを皆さんに見てもらいたいです。地元の人はみんな優しく温かいと、地域活動をするたびに感じます。私の地元が好きという思いをクライマックスの「大隅大好き」のシーンでも表現したいと思います。

主役としての成長
中学校時代は引きこもりで、人前に立つのが苦手な時期もありました。14代目のヒコ役である和田創太さんの演技を見て感動したことがメンバー入りのきっかけで、仲間との練習を2年間ともにしていく中で、だんだん主役として舞台上に立ちたいという想いが芽生えてきました。今は皆さんの前で演技をしたいという思いで一杯です。今回の「ヒメとヒコ」の剣での殺陣シーンは、歴代のヒメヒコの中でも迫力があるステージとなる自信があります。今までとは一味違うヒメヒコに、ぜひご期待ください！

「ヒメとヒコ」とは？
高校生ミュージカル「ヒメとヒコ」は、メンバーが大隅半島を中心とする鹿児島県内の高校生による舞台演劇で、市文化会館の自主文化事業として市教育委員会が主催し、株式会社まちづくり鹿屋が企画しています。今回のメンバーは16代目に当たり、2年生7人と3年生10人が在籍。本番ではさらに国分中央高校ダンス部をダンサーに迎えて公演を行います。舞台となる大隅の歴史



▲平成8年に出土した象嵌装大刀(上)とそのレプリカ(下)。串良ふれあいセンター内串良歴史民俗資料室に出土品が展示されています。



◀鹿屋市文化祭での創作演舞の様子

公演に至る道のり
毎年4月に行っているメンバー募集の後、順次新メンバーを加えながら稽古が始まっていきます。1回3時間の練習を毎週2回行い、劇中歌の練習や演技指導、激しいアクション練習に加え、夏と冬にはキャンプ場での合宿を実施。さらには、長時間の演劇に必要な身体づくりとして体幹トレーニングやラニングなどの運動も行っています。また、地域活動にも取り組んでおり、昨年10月に行われた第53回鹿屋市文化祭では創作演舞を披露するなど、市に文化を根付かせるための活動も行っています。ヒメヒコメンバーは、3時間公演のために高校時代の青春を懸けて努力を続けています。